

作成日：西暦 2026 年 2 月 23 日

西暦 2005 年 1 月～西暦 2026 年 3 月までに当院において婦人科がんに対し

放射線治療を受けられた方およびご家族へのお知らせ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた情報の記録に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和 3 年 3 月 23 日制定 令和 3 年 6 月 30 日施行）」により、対象となる患者さんのお一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の診療情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名

婦人科がんに対する放射線治療の治療成績に関する後ろ向き研究

2. 研究期間

研究機関の長の許可日 ～ 2029 年 02 月 28 日

3. 研究機関

産業医科大学

4. 研究責任者

産業医科大学病院 放射線治療科 准教授 大栗隆行

5. 研究の目的と意義

放射線治療は婦人科がんの集学的治療の一躍を担っているものの、従来の放射線治療では消化管障害などの生活の質の低下要因となる晩期の副作用が、問題となっています。近年進歩した高精度な放射線治療技術により、消化管障害などの副作用の出現率の低下や薬物療法や温熱療法の同時併用に治療成績の改善が期待されています。

【目的】

この研究により、IMRT などの高精度放射線治療や抗がん剤、免疫チェックポイント阻害薬や温熱療法を併用した近年の集学的治療法の有効性や副作用、および治療成績に影響を与える因子を検討することを目的とします。

【意義】

今後の婦人科がんに対する放射線治療の安全性、有効性を詳細に検証するための意義ある研究です。

6. 研究の方法

患者さんの診療情報を電子カルテより採血や種々の検査結果、画像、使用薬剤、既往歴など、また治療装置から放射線治療や温熱療法のデータを抽出します。抽出したデータより、治療効果や副作用を調べます。さらに治療効果や副作用に関連する因子を探索します。また、放射線治療後に生じた副作用の発症頻度や経過に関しても電子カルテや画像を基に調査します。

7. 個人情報の取り扱い

個人情報は、カルテや治療データの整理簿から、住所、氏名、生年月日を削り、代わりに新しく符号をつけ、研究責任者が厳重に管理し、個人情報の漏洩を防止します。この研究で得られたデータは、当該論文等の発表後 10 年間保存された後、全て廃棄します。その際には研究責任者の管理の下、匿名化を確認し個人情報が外部に漏れないように対処します。また同意を撤回された場合にも、その時点までに得られたデータを、同様の措置にて廃棄します。

8. 問い合わせ先

産業医科大学病院 放射線治療科 大栗隆行
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1 電話番号 093-603-1611

9. その他

研究への参加に対する直接的な利益はありません。また、費用の負担や謝礼もありません。この研究は病院研究費および奨学寄附金で行われ一切の利益相反はなく、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公正性を保ちます。